

○3番（相良昌宏君） 傍聴席の皆さん、おはようございます。きょうは、お忙しい中お越しいただきまして、まことにありがとうございます。議席番号3番、相良昌宏です。議長より発言の許可をいただきましたので、通告に従って一般質問をさせていただきます。

1項目めとして、エコスクールについて1点お伺いいたします。小中学校におけるエコスクールの取り組みについてです。エコスクールとは、文部科学省が太陽光発電や木材を利用した施設や校庭の芝生化、自然換気等省エネや環境負荷軽減のための施設を持つ幼小中高を認定する制度で、2018年度55校の幼小中高が認定されています。認定校はこれらの施設の学習への活用が認められる一方、幼小中学校での改築、改修の際に国からの補助が通常より優遇されます。当町では、このようなことから、小中学校におけるエコスクールの取り組みについてどのようにお考えかお伺いします。

次に、2項目めとして、高齢者の生活支援について2点お伺いします。1点目は、高齢者の免許返納についてです。ことし4月には、高齢者ドライバーによる痛ましい事故がありました。被害者の方に改めてお見舞い申し上げます。これから高齢者ドライバーがますますふえていくと思われませんが、高齢者は加齢に伴う身体機能の低下、認知機能の低下などが考えられ、痛ましい事故を未然に防ぐためにも、自治体は免許返納者への対応、サポートが必要かと思われします。免許返納率には地域差があり、1位の東京都が8.1%、2位の大阪府が7.6%、3位、4位が兵庫、神奈川県で6.5%、そして茨城県は46位の3.9%です。47位は高知県が3.7%です。これは公共交通機関の整備の差によるものが多く、このようなことから町の交通機関の整備とあわせて高齢ドライバーの免許返納についてお伺いします。

2点目は、高齢者のごみ出し支援についてです。今、高齢者の単身世帯、高齢者夫婦世帯がふえ、年代とともに生活意欲や筋力の低下、認知症に伴って自力でごみ出しができなくなり、自宅にごみがたまるごみ屋敷が問題になっています。環境省では、現在全国の自治体で実態調査を行い、ごみ出し支援制度がある自治体は23%であります。高齢化は年々進んでおり、問題は一層深刻化してきて、自治体によるサポート体制は喫緊の課題として捉えているのが国の対応です。現況とごみ出し支援について、これらのことからお伺いいたします。

以上、私の質問事項は2項目、3点についてお伺いします。ご答弁よろしくお願いたします。

○議長（倉持 功君） 最初に、エコスクールについての質問に対する答弁を求めます。教育次長。

〔教育次長 小関幸枝君登壇〕

○教育次長（小関幸枝君） 相良議員の1項目め、エコスクールについての1点目、小中学校におけるエコスクールの取り組みについてのご質問にお答えいたします。

相良議員ご質問のエコスクールは、環境を考慮した学校施設のことであり、環境負荷の低減に貢献するだけでなく、それを教材として活用し、児童生徒の環境教育に資するもの

であり、地域の環境教育の発信拠点としても先導的な役割を果たすものとされており
ます。国では、これまでエコスクールパイロット・モデル事業として、平成9年度から平成
28年度までに全国で1,663校、県内で43校を認定し、平成29年度からはエコスクール・プ
ラスとして全国で143校、県内で3校が認定を受けているという状況であります。平成29
年度からのエコスクール・プラスは、文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省が連
携協力して学校設置者である市町村等がエコスクールとして環境を考慮して整備する学校
を認定するもので、認定を受け一定の条件を満たした場合には、学校施設の新築、増築、
改築または改修を実施する際に、文部科学省より施設整備について国庫補助単価のかさ
上げ措置や関係各省より補助事業の優先採択などの支援を受けることができるものでござ
います。認定校の事業タイプといたしましては、太陽光パネル装置による太陽光発電型が多
く見られるほか、地元産の材木を内装に多く利用した木材利用型、LED照明の設置など
省エネルギー・省資源型などがあるところでございます。

当町におきましては、平成23年度、長田小学校校舎の改築にエコスクールパイロット・
モデル校の認定を受けて、太陽光発電設備を設置いたしましたほか、ご案内のとおり既に
各小中学校におきましても校舎等の屋上や屋根に太陽光パネルが設置され、学校が使用す
る電力にも活用されており、学校における環境負荷の軽減にも寄与しているところでござ
います。このエコスクール・プラスは、近年の地球規模の環境問題に対する取り組みの強
化や、当町が進めております持続可能な開発のための目標、SDGsにおける目標7の
「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」につながる取り組みであると考えております
ので、今後学校施設設備の改築、改修時の時期に合わせて、国が支援するエコスクール・
プラスの対象とする施設、設備の整備を行うかどうかなど、当町といたしましても検討し
てまいりますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

相良昌宏君。

○3番（相良昌宏君） 答弁ありがとうございます。

長田小学校エコスクール認定を受けたということですが、エコスクール認定を受けたこ
とによって、学校での環境授業、そちらのほうの授業のとり行いはどのようにしています
か、お伺いします。

○議長（倉持 功君） 質問に対する答弁を求めます。

教育長。

○教育長（忍田暢男君） 皆様、改めましておはようございます。相良議員の再質問につ
きましてお答えをさせていただきます。

ただいま、長田小学校、平成23年度にエコスクールの認定を受けたということでご答弁
させていただきましたが、現在長田小学校では校舎内の目につきやすいところに太陽光発
電システムによる発電量の表示モニターを設置しておりまして、そのモニターから自然エ
ネルギー発電によりまして抑制されますCO₂量などを児童が日々観察できるようになっ

ておりまして、児童の環境保全の意識向上につながっているところでございます。

また、そのほか各学校におきましては、社会科、それから理科、家庭科、総合的な学習の時間などにおきまして、各教科の学習内容と、そして環境を関連づけまして、例えば循環、多様性、有限性、保全などの視点から環境教育を行いますとともに、また具体的な活動としまして資源ごみの回収やあるいはエコキャップ運動など、児童生徒の体験的な活動にも取り組んでおります。

さらに、猿島小学校ではオオムラサキの飼育、それから森戸小学校ではホタルの放流というように、地域の方々のご協力をいただきまして自然保護に対する児童の啓発にも努めておりまして、それぞれ学校が持つ地域資源を活用しながら環境教育を行っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

相良昌宏君。

○3番（相良昌宏君） このエコスクール事業の施設を利用した環境教育の取り組みですが、全国ではなかなかこれが取り組めない、難しいということで、11.1%、35校くらいしかやっていないということなのですが、これからも学校教育、環境問題に子供たちが取り組んでいけるような、そういうふうな取り組みを町としてもよろしく願いたいします。

○議長（倉持 功君） 質問に対する答弁を求めます。

町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、相良議員さんのご質問にお答えします。

先ほど教育委員会から、長田小学校がとっていて、長田小学校がそういう教育をやっているということだったのですけれども、まず根本で、今名前が変わってこのエコスクール・プラスという事業、やるのには総額7,000万円以上の事業でないと認定にならないわけです。ですので、7,000万のうち補助率はどれくらいかという、改築だと3分の1なのです。ということは、3分の2は町の持ち出しだということになるわけでありまして。

そして、例えば一中の体育館のLED化にするとかやっても、これは1カ所400万円以上かからないと補助の対象にならないということでもありますので、400万円以上の箇所と、総額で7,000万円以上の申請をしないと通らない。なおかつ3分の1の補助ということなので、それにまず取り組むかどうかということ。もっと補助率がいいものがあれば、本当はそっちのほうがいいのではないかとか、実際に境町の小中学校の場合、全部ソーラーが載っているものですから、そんなに経費がかからないものですから、逆に議会の皆さんとともに、そうやって改築した中で、例えば普通にやる事業で7,000万円ぐらいかかってしまうと。では、この事業を利用したほうがいいねというならいいのだけれども、そうでない場合には7,000万うちの3分の2ですから、大体4,500ぐらいですか、5,000近いですよね。5,000万近くを町の財源で持ち出すわけなので、それをかけてやったほうがいいのかどうかという議論が、まず根底にあるべきなのかなというふうには思っている

のです。

いいことなのだけれども、取り組んでいる自治体が少ないというのは、補助率が少ないから。これが8割とか9割の補助金だったら、多分どこの自治体もやっていくと思うのですけれども、補助率の部分が少ないので、新築だと2分の1なのですって。新築の建物、例えば小学校を新しくするとか、中学校を新しくするときに、このエコスクールの認定をいただくと、2分の1の補助がそれに対して出たりするので、やはり今ある施設を改築してというと3分の1なので、そこがネックになっているのかなというふうに思っています。

ただ、エコの事業、さっき言ったようにSDGsとかそういう意味で、やはりクリーンエネルギーだったりとか、節電だったり環境に優しいとか、そういう事業は基本的には町全体としてやっていくべきだろうというふうには思っていますので、そのエコスクール事業をとるかどうかというのは、実際に必要かどうかというのを皆さんとともに検討させていただいて、もしある場合には活用させていただければというふうには思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。ですので、子供たちへのエコ教育とか、そういったものはしっかり全小中学校でやっていきたいというふうには思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

相良昌宏君。

○3番（相良昌宏君） そういうところも考えながら、町ではクリーンなエネルギーである水素事業、これを推進して、環境省に1名職員を派遣しているということから、これからも環境行政のほうに取り組んでいただければと思ひますので、よろしくお願ひします。

これでこの質問は終わりにします。

○議長（倉持 功君） これでエコスクールについての質問を終わります。

次に、高齢者支援についての質問に対する答弁を求めます。

最初に、総務部長。

〔総務部長 島根行雄君登壇〕

○総務部長（島根行雄君） 改めまして、おはようございます。それでは、相良議員の2項目め、高齢者支援についての1点目、高齢ドライバーの免許返納についてとのお質問にお答えをいたします。

茨城県における免許返納者数でございますが、平成29年度は7,023人、平成30年度は7,626人と増加傾向にあります。境町では、平成29年度は29人、平成30年度が41人となっております。高齢等の理由により運転することが困難あるいは不安となった場合など、運転免許証を自主的に返納される方は増加傾向にはありますが、地域により格差が生じている状況でございます。また、一方で本格的な高齢社会を迎え、加齢による機能低下などにより買い物や通院などにお困りの高齢者や、交通手段がないなどの理由により、なかなか免許を返納できない方がいらっしゃることも事実であります。これらの方々の移動手段を確

保していくことは、喫緊の課題であると捉えております。

運転免許証を自主返納した高齢者等に対する公共交通機関利用の優遇制度につきましては、本年6月現在、県内44市町村中38の市町村でタクシー利用代の助成や路線バス、コミュニティバスなどの割引を実施しております。当町の高齢者の移動支援といたしましては、買い物などの日常生活については対応はしておりませんが、免許証の返納にかかわらず、70歳以上の境町在住の方が医療機関への通院や機能回復訓練施設への通所のためにタクシーを利用した場合、料金の一部を助成する福祉タクシー利用助成事業を実施しております。このような中、町といたしましては町民の皆さんに必要な公共交通機関の整備に向け、その指針となる境町地域公共交通網形成計画を策定中であり、多方面からの意見やニーズを計画に反映するため、町民の代表を初め、有識者、交通事業者、行政等で組織される境町地域公共交通活性化協議会を昨年度末に設立したところでございます。今年度は素案をもとに、協議会においてさまざまなご意見を頂戴しながら計画を策定してまいりたいと考えております。

例えば自動運転の導入が国のスーパーシティ構想の中でうたわれており、自動運転とシェアリングや公共交通の組み合わせにより、人と物がスムーズな移動の実現をするなどがされており、自動運転の時代もすぐそこまで来ていると実感をさせられますが、町といたしましては当面行政懇談会などでも要望のあった循環バスについて、10人乗りのワゴン車などにより、2ルートぐらいを実験的に復活させていくような手法も検討してまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いをいたします。

以上でございます。

○議長（倉持 功君） 次に、福祉部長。

[福祉部長 椎名 保君登壇]

○福祉部長（椎名 保君） それでは、相良議員の2項目め、高齢者支援についての2点目、高齢者のごみ出し支援についてとのご質問にお答えいたします。

まず、県内の高齢者ごみ出し支援取り組み状況であります。自治体で直接訪問収集を行っている市町村は龍ヶ崎市の1市で、週2回、職員2名体制で安否確認のため声かけを行いながら訪問、収集を無料で行っており、収集対象は51世帯であります。また、常陸太田市ではごみ出し支援を含めた集積所管理補助として、行政区の班1カ所当たり年間1万円、合計1,000万円の予算を計上しています。さらには、支援収集をシルバー人材センターに委託している自治体は、牛久市ほか6市町あり、年間2件から80件の収集で1回500円から800円の有償回収を行っており、加えて取手市では一般廃棄物収集業者に数世帯程度の追加収集をしていると聞き取り調査を実施いたしました。

全国的には高齢化率が高くなっており、高齢者のごみ出し支援が課題として報道等で取り上げられている中、境町では多様な日常生活上の支援体制の充実強化及び高齢者の社会参加を一体的に図っていくことを目的に、平成30年度から生活支援体制整備事業を社会福祉協議会に委託して実施しております。この事業は、町の生活圈域を2つに分け、「えん

がわ」,「つながり」の協議体を設置し,支援を必要とする人に対し買い物や通院,ごみ出しといった困り事を地域の元気な高齢者やボランティア,民間企業,多種多様な人たちがサポートできるよう調整を行い,行政に頼らない地域づくり基盤を形成するものでございます。2つの協議体では,支援が必要な方々や何に困っているかなどを聞いてニーズの掘り起こしを行っておりますが,ごみ出し支援につきましては昨年の実績は,えんがわの2回となっております。また,町でいきいきクラブ連合会を構成する5団体に聞いたところ,ごみ出しで困っているという話は聞いていないとの回答でした。

今後も先進事例を参考にしながらボランティアを広く募集し,地域活動の輪を広げていく中で,高齢者のごみ出し支援についても充実を図ってまいりたいと考えておりますので,ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長(倉持 功君) ただいまの答弁に対し,質問はございますか。

相良昌宏君。

○3番(相良昌宏君) 境町に限らず地域の交通の便が悪く,車がないと買い物や通院など日々の生活に支障があることから,高齢者の免許の現状が進まないと思います。そこで,さっきタクシーで福祉タクシーとありましたが,普通の健常者が免許を返納したときの健常者のほうのところはありますか。

○議長(倉持 功君) 今の答えですけれども,どうですか。

○3番(相良昌宏君) 健常者の場合は対応が……

○議長(倉持 功君) ただいまの質問に対する答弁を求めます。

○3番(相良昌宏君) 健常者,病気でない人がある程度心配してではないけれども,先に返した人の場合は。

○議長(倉持 功君) 町長,橋本正裕君。

○町長(橋本正裕君) それでは,相良議員さんのご質問にお答えします。

こういうことですよ。病院に行く人以外で免許を返した人が,そういうタクシーの助成を受けられるのとかやっていないですかということですよ。やっていないです,それは。町としてはやっていなくて,皆さんと今相談しているようにどうしていくかということです。なので,逆に相良さんのほうで,こういうのがあったらいいなみたいな質問していただければ,それに対して回答するような話なので,今現状としては,古河市なんかは免許返納で書いてあるのが,福祉タクシーが書いてあるのです。うちは福祉タクシーやっているのだけれども,書いてはいないです。今,そういう状況です。ですので,逆に相良さんのほうでこういうのがあったらいいなみたいな質問をしていただくと,我々も回答はしやすいのかなというふうに思いますので,よろしく願いいたします。

○議長(倉持 功君) 答弁に対する質問はございますか。

相良昌宏君。

○3番(相良昌宏君) シルバー人材センターなど,そういうところで送迎とかはできないでしょうか。

○議長（倉持 功君） 町長，橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは，相良議員さんのご質問にお答えします。

シルバー人材センターで昔運転手の派遣とかやっていたのですけれども，これは44市町村どこでもやっていないということで，境町では廃止をしたばかりでございます。ですので，それで部活動の運転手がいなくなったり，町中の例えば環境センターのバスの運転手がいなくなったりとか，非常に今困っている状況なので，シルバー人材センターをお願いをして人を出していただくというのは建設的ではないのかなと。例えば人を出していただくというよりは，本当にタクシー会社に委託をするとか，そういうことになるのです。なので，やり方としていろいろ検討しなくてはならないことが多いので，シルバー人材センターでというのはちょっと難しいかなというふうに思います。

○議長（倉持 功君） 答弁に対する質問はございますか。

相良昌宏君。

○3番（相良昌宏君） 先ほどタクシー会社とかバス会社とかありましたけれども，そのように連携してやっていくというお話はあるのでしょうか。

○議長（倉持 功君） 町長，橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは，相良議員さんのご質問にお答えしますが，根本だと思うのです。根本で免許を返す，返さない，返して生活ができるのか。返しました。それでも足がありません。困っています。土，日には，娘さんが帰ってきた，息子さんが帰ってきたときに買い物に連れていってもらおう。でも，頼むのがつらいとか，これは根本だと思うのです。今ある現状です。今ある課題です。だから，何とかしなくてはならないという思いで，多分質問をされているのだと思うのです。

町としては，先ほどのタクシーの助成って多分1回きりが多いのです。見てみると，1回きりで3万円分のタクシー券出して，次の年からは知らないということになってしまうわけです。でも，それでは意味ないですね。やっぱり毎日の生活ですから。返したはいけれども，買い物に行くのが困る，病院に行くのが困る，それから服を買いに行くのが困る。ネットがあるではないかといったって，ネット使えないですよというのが本当の話だと思うのです。

なので，町として考えているのは，先に一番できる話としては，まず循環バスの小さいものを出して，今まで多分昔の循環バスだと，森戸地区とかぐるっと回って西南医療センターへ行くのに2時間ぐらいかかったと思うのです。西南まで2時間かけていたら，それまででぐあい悪くなってしまって，西南に行ってから逆に並んでいたらまた2時間かかって，4時間かかってしまって，帰ってくるのに1日かかりみたいだみたいになってしまうわけです。本当の話ですよ。なので，今町として考えているのは，とりあえず10人乗りぐらいのハイエースみたいな車を出ささせていただいて，とまる方式もバス停もあるけれども，手を挙げれば乗れるような，そういうような町中で手を挙げれば町の人だとわかって乗れるような，そういうような仕組みをまず入れるのが，ある程度最低限病院に行けたり

とか、例えば買い物に行けたりとかの必要最低限のことなのではないかということで、今公共交通策定委員会というのをつくりましたので、そこに諮問をして、どういうルートで、どういうやり方がいいか、一回試験的にやりたいというのが、2台ぐらい用意して、2ルートぐらいでやりたいというのが町の考えであります。

そのほかに、例えば議員さんの中で、免許返納したときにこういうのがあってほかで喜ばれているから、こういうのをやったらどうだとか、例えば水戸でやっているのは1,000円タクシーというのをやっているのです。どんなに乗っても1,000円でいいと。そのほかは町が1年間契約をしていて、1,000円で全部そういうふうに町民の皆さんが乗れるというような、結構人気なのです。ただ、境町の課題はタクシー自体も高齢化をしてきて、ともすればタクシーがなくなってしまうかもしれないというところまで来ているのです。本当の話。バス会社がそうなのです。本当に若い人がいなくて、非常にこの先タクシーも、我々がなくなったらやめざるを得ないぐらいの話を、タクシー会社さん2社ありますけれども、聞いているところなのです。

なので、やっぱり全体的に考えてどういうふうなことが住民の皆さんに一番いいのかというのを、ぜひ議会の皆さんからも提案いただければ、我々は全面的にやりたいですし、どれが一番いいのかというのを考えているところでありますので、議員さんの中でも多分言われていると思うのです、身近な話なので。先ほどの循環バスの話も、朝早く出すことによって、子供たちがそれに乗って通学ができるようになったとか、それは5人か10人かもしれないですよ。でも、遠い子供たちがそれに乗って学校に行けるようになったとか、いい事例が結構あちこちで出ているのです。なので、そういういいことはやると皆さん喜ばれますから、我々もやりたいと思っていますので、ぜひこういうやり方がいいのではありませんか。とはいっても、例えば一回免許返納したときにも、ぜひ何か出したほうがいいのではないかとわれれば、それは検討していきますので、ぜひ議員の皆さんでこれとこれとこういうのはやっていただきたいとか、そういうことを考えていただきたい。

そして、町としては行く行くは、多分この2020年以降自動運転になっていくとは思っています。ただ、目の前の話ではないです。ハイブリッドカーのときもプリウス、すぐ普及したかという、そうではないです。今でこそハイブリッドカーがいっぱいになりましたけれども、自動運転も多分普及するには5年、10年かかるのです。なので、例えば本当の話、きょう来ている方々は皆さん若いので大丈夫でしょうけれども、うちのおばあちゃんなんかだと5年、10年なんていったら、生きていられるかわからないですから、そういう目先の話を町としてはしっかり考えながら、未来の話も同時に議論していきたいというふうには思っていますので、自動運転のそういう社会、AIの社会とか、スーパーシティとか、そういったのはこうなるかもしれないけれども、なっていったらいいよねという話で住民の皆さんに理解をしていただく。

目先の話では、さっきの循環バスであったり、1,000円タクシーであったり、例えばデマンドがいいのか、その1,000円タクシーのほうがいいのか、そういう議論を今公共交通

網策定委員会でやっているところなので、僕も回答でいつも公共交通網策定委員会でやっていますと言われて、いつ出るのだと。本当の話は1カ月か2カ月で出してほしいのだけれども、年度内だというわけです。遅いと僕は言っているわけです。やっぱり早目にある程度中間報告なり出していただいて、それを受けて議員の皆さんとこれと、これはやったほうがいいから、では予算つけて、とりあえず9月ぐらいから試験的にやろうとか、12月から試験的にやろうとか、そういうことが必要なのではないかというふうには思っているところでありますので、ぜひすばらしい提案をしていただければ、我々しっかりと応援をしていきたいというふうにも思っていますし、我々もしっかり考えて提案していきたいというふうには思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（倉持 功君） 答弁に対し、質問はございますか。

相良昌宏君。

○3番（相良昌宏君） 公共交通のそれをなるべく早目によろしくお願ひします。

高齢者ほど運転に自信があるという結果が出ているのですが、60代後半で51%、70代前半で60%、70代後半で67%、80代以上では72%の人が自信があると、こういう結果となっておりますので、いつどのようなことになるか、早いほうがいいと思ひますので、よろしくお願ひします。

滋賀県警のほうでは、免許返納の情報を地域の高齢者福祉の拠点に伝え、生活に不便が生じぬようそこで支援しています。また、免許返納を拒む高齢者を、自治体、警察、福祉施設、交通機関が一体となる枠組みの支援がこれからは必要かと思ひます。これとは違ひますが、東京都の小池知事は、ブレーキとアクセルの踏み間違ひの機器、ペダルの見張り番、これの購入時の補助金を検討している。国は、政府は高齢者の新しい運転免許の創設、そちらの安全機能つきを限定とした新しい運転免許を今年度内に示す方向で進んでいきますので、よろしくお願ひします。

この点は終わります。

○議長（倉持 功君） では、ごみ出しについての再質問はありますか。

○3番（相良昌宏君） ごみ出しなのですが、社協でやっているということなのですが、そちらのほうでも大変お世話になっているところがございますが、町内会とかで、仙台市、これはごみ回収の支援を行う町内会、ボランティアなどに助成金を出して見守りにもなっているということで、また福島市では市の職員、下野市ではシルバー人材センターが高齢者宅で週1回から3回ごみの回収、対面で声をかけ安否を確認など、流山市では市の清掃業者が高齢者宅で週1回ごみを回収、孤独死を防ぐために2週連続ごみが出ていない場合は親族に連絡とか、こういう対応をしている行政がありますが、仙台市のようにまちの町内会など、ボランティアなどの取り組みなどは、境町では行われているのでしょうか、お伺ひします。

○議長（倉持 功君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

介護福祉課長。

○介護福祉課長（張替克己君） それでは、相良議員の再質問にお答えさせていただきます。

ご質問内容としては、町内会やシルバー人材センターとかにそういう形の例えば見守り等を行っているかという内容だと思いますけれども、先ほど答弁の中でありましたえんがわ、つながり、こちらが社協のほうでやっているということで答弁させていただきましたが、実際には社協のほうでそういうえんがわ、つながりという協議体が地域のボランティアの方と連携を図りながらやるという事業で行っておりますので、そのボランティアの方が実際は見守りであるとか、それからごみ出し支援も2回やったということで答弁させていただきましたけれども、そういう形で実際に支援を行っているということで答弁をさせていただきます。

また、議員おっしゃるように見守りについては、ヤクルトの配達、それから給食の配食サービス、これは週1回でございますけれども、実際やっております、その配食やヤクルトの配布のときに見守りを行っているというところでございます。ごみ出しのごみが出ていないから、何かあったというような見守りは行っておりませんけれども、そういう形で見守り等も行っているところでございますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○議長（倉持 功君） 答弁に対する質問はございますか。

○3番（相良昌宏君） 今、ごみ出し支援は高齢者の見守りにもなり、またごみがたまり環境も悪くなる、そういう防止にもなりますので、もしこれからこういうところである場合はご検討いただければと思いますので、よろしく願いします。

以上で私の2項目、3点の質問を終わります。

○議長（倉持 功君） では、町長のほうからごみ出しについての質問に対する答弁を。

○町長（橋本正裕君） それでは、相良議員さんのごみ出しのほうではなくて、さっきいい提案がございました。踏み間違いのペダルの装置、今、後づけのがありますよね。あれに対してぜひ補助を出してくれないかなんていう話がありました。今、ちょっと調べたら、東京都では補助を出してやるということで、6月の先週ぐらいですか、なっていたのですよね。費用もそんなに高くない。多分三、四万ぐらいなのです、1台。なので、9割とか8割補助を出しても、議会の皆さんが納得していただければ、町の財源的にはそんなに不可能ではないことなのかなというふうに思っているのです、ぜひ町としては前向きに、今回の補正には間に合っていないかもしれませんが、前向きにそういう補助を出すような方向で検討していきたいというふうに思ったものですから、答弁をさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。大丈夫ですか。

相良昌宏君。

○3番（相良昌宏君） 町長、ありがとうございます。このペダルの見張り番、さっき言われた大体3万円ぐらいなので、こちらの補助をよろしくご検討ください。よろしくお願

いします。

以上で私の2項目、3点の質問を終わります。町長、関係部署の丁寧なご答弁ありがとうございました。

○議長（倉持 功君） これで相良昌宏君の一般質問を終わります。